

# 博多湾「和白干潟」のラムサール条約登録についての要望書提出報告

今村 恵美子

日時：2012年8月7日（火）14:00～14:30

場所：福岡市役所市長秘書室

参加：11名 山本、田中、河上、重松秀、田辺、高田、森、松尾、山之内（カメラ）、今村（報告）、  
荒木市議

福岡市 市長室秘書課 古庄美智子庶務係長 他1名

真夏の最も暑い時間帯ではありましたが、福岡市長に対して2015年第12回ラムサール条約締約国会議に向けて、福岡市が積極的にラムサール登録に取り組むことを求める要望書を提出しました。2003、2007、2010年にも「博多湾和白干潟の保全のための提案」を出し、ラムサール条約登録について要望してきましたが、実現に至らず、今回で4回目の要望となりました。2012年7月九州の干潟として初のラムサール条約登録地となった荒尾干潟の状況を知り、和白干潟のラムサール条約登録に向け、守る会の並々ならぬ決意を示したものです。

高島市長は多忙につき面会はできませんでしたが、秘書課庶務係長が対応し、話は熱心に聞いていただきました。係長はホームページなどで守る会の活動のことは知っている、ラムサール条約という言葉は人工島の開発計画の話の中で知ったということをお話されていました。

守る会は山本代表が要望書を読み上げ、ラムサール条約登録の実現に向けてのこれまでの守る会の活動や自然環境の変化などを丁寧に熱意を込めて説明。和白干潟のラムサール条約登録に向けて、ぜひ若い高島市長に積極的に取り組んでほしいと要望しました。人工島に反対し、和白干潟を守る活動を和白干潟を守る会と共に活動してきた荒木市議もこれまでの福岡市の対応のいきさつなどを説明、和白干潟のラムサール条約登録は福岡市のシンボルになる、地元が大事にしてきた環境こそが将来の財産になると力説、これまで人工島事業の妨げになるとしてきた姿勢を改めてほしいと語りました。重松秀さんも、国が湿地再生事業に取り組むという方針を進めているので、民有地であっても湿地の回復に努めてほしいと要望しました。

係長は「申し入れの主旨はよくわかりました。要望書はしっかり伝えます。高島市長は行動的な人柄です。」と答えてくださいました。

この後14:30～15:30まで市政記者クラブで記者会見をしました。毎日新聞、朝日新聞、西日本新聞記者が取材され、山本代表が要望書の説明をし、質問を受けました。市がどのような役割を果たすべきか、何が障害になっているか、国指定鳥獣保護区と特別保護区の違いは何か、ラムサール登録地になるとどのようなメリットがあるかなど色々な質問が出されました。

私たちは「環境省は市の申請を待っている。市は地元農家だけを地元住民として国の説明会開催の便宜を図ってきたが、一般住民の声を聴いてほしいと願っている。特別保護地区になると開発規制がかかることから、土地の値上がりを期待する地権者が嫌っているようだ。」など問題解決に向け、市の覚悟一つであることを説明しました。また、ラムサール条約登録地になると市民の関心がわき、郷土の自然を大切にすることが私たちにとって一番望ましいことであると答えました。翌日の西日本新聞に記事が掲載されました。今回の申し入れは、猛暑にもめげず11人老若バランスよく参加、熱意を示すことができたと思います。

回答は9月10日にいただくことになっています。